

し單純なる労働者たるの間は彼等は少量の貯金を得るや直ちに其の故國に歸去せん事を欲し、依りて以て我が邦の如き邦土に於て特に貴重なる勞力と資本とを奪却する傾向あればなり。然り而して此の事たる余の最も心力を傾注する所とす」云々。

の言葉があつたが、**ブラジル**政府の眞意を最も明瞭に言い現はしたものである。次でマーシャル・エルメス氏が第六期の大統領となつたが、國是に於て變る所はない。故に**ブラジル**政府の力を盡す所は、移民よりも寧ろ植民にある。政府自ら一個人から土地を買ひ上げ、其處に道路を開き、家を建て、又は農事試験所などを設けて、只管永住者の來らむ事を期待してゐる。

近頃北米カリフォルニア州には土地問題が紛起してゐるのは、讀者の知れる通りである。其の由來する所を聞けば、土地所有權の確保とか、歸化權の獲得とか云ふ事にある。之を**ブラジル**に移して見るに、斯かる問題は殆ど無意義であつて、**ブラジル**の官民は亞細亞人と歐洲人とを問はず歡迎

し、又何人にも歸化の權利を與へてゐる。現に日本人の中にも、すでに歸化權を得てゐるものもある。

北米在留の日本人が加州議會の爲に至大の侮辱と損害とを與へられてゐるのを眼前にしつゝある余は、**ブラジル**共和國が如何に自由の新天地であるかと思はずに居られない。

### 二 植民地

#### の種類

植民地には

ろ／＼の種類が

伯刺西爾拓植社會相談  
男爵近藤廉平氏



Baron R. Kondô,  
Conseiller du "Buraziru  
-Takushoku-Kwaisha,,

の植民地もある。政府設定の植民地もある。別個人經營の植民地もある。

で、政府設定の植民地には、(1)、聯合政府設定の植民地と、(2)、州政府設定の植民地とある。聯合政府の植民地は、中央政府直轄地方のみならず、各州に設定されてある。會社經營のものにも、

(1) 聯合政府の補助を受けて設定したもの  
 (2) 州政府の補助を受けて設定したもの  
 がある。今度サンパウロの南部リベイラ流域に設定されやうとする日本人植民地は、會社經營の植民地の(2)に當るもので、州政府補助の下に成立するものである。會社經營の植民地の外に、個人經營の植民地もある。サントカタリナ州のブルメナウ植民地の如きは、獨逸人ブルメナウ氏が創立した植民地で、即ち個人經營の植民地に當るものである。資本の不十分な所から、中途に聯合政府に交渉して、聯合政府の補助を受くるやうに爲つたのである。

で、ブラジル聯合政府又は州政府が、植民地に對して與へて居る保護は、  
 イ、移住民を移住地迄無償にて運搬する事  
 ロ、新たに植民地に到着せる移民に對しては、農具(鋤、鍬、斧、鎌等)及び種子を同じく無償にて供給する事

ハ、移住者にして家族の維持に困難なる者には到着したる日より其の生産物は、收穫又は賣却する迄少くも六ヶ月間は食料其の他の必要な補助料を與ふる事  
 ニ、同じく植民地に到着せる日より向ふ一ケ年間は無償にて醫藥を供給する事  
 ホ、生産物又は食料のために倉庫又は納屋を設



M.B. Nakano,  
 Président de la Chambre de  
 Commerce de Tokio, Conseiller  
 du "Buraziru-Takushoku-Kwaisha,"

へ、必要ありて移住民の希望する時は耕作及び其の運搬に必要な牛

馬、車輛の購買又は賃借を容易ならしむる事  
 右は「聯合政府植民法準則」に規定されたもので、如何なる植民地でも大抵かくの如き保護はある。其の他別に州政府特定の保護もある。詳しくは日

本人植民地を紹介する場合に譲り、ブラジル共和国が有ゆる方法と手段とを以て移住民の便宜を謀つてゐるのは、我々日本人から見れば、寧ろ不思議な位である。

### 三 植民地の現状

ブラジルに於て永住を目的とする植民が出来たのは餘程舊い事で、今から約百年前に、スエスの農夫の一團が植民地を開いたのが其の始めて、ノヴァ・フリブルゴは其れである。其後伊太利、西班牙又は獨逸人等續々往航し、遂に今日に至つたものである。就中植民として成績を挙げたのは、獨逸人で、リオ・グランデ・ド・スール州などは、適例であらう。サン・レオポルドの植民地の如きは、人口一萬有餘、教會興り、學校建ち、各種の工場續出して、遂にスール州の中心地となつた。リオ・グランデ・ド・スール州のみならず、隣邦のサンタカタリナ州も、獨逸人の植民地として名ある所で、ブルメナウの如き、人口四萬五千、十中八九は獨逸人を以て固めてゐる。

青柳都太郎氏



M. I. Aoyagi, Directeur du "Buraziru-Takushoku-Kwaisha".

其の他リオデジャネイロ、ミナス・ゼライス、エスピリト・サントなどには、州内に入るに成功した植民地がある。サンパウロ州も其の例に洩れず、到處に州政府の植民地がある。年月の舊いのは、イグアペ河口のカナリア植民地で、今から五十年程以前に設立されたものである。獨立町村な

今より二十年前、孤劍飄然として、南米のヘルに渡航したのは、青柳都太郎氏である。爾來馬來半島に計畫を貯へ、或は布哇移民に新旗幟を翻へし、南船北馬、席腰かならなかつたが、其の後禪學に隠れ、殆ど世事を相持らず、人をして其の存在を疑はしめたが、焉んぞ知らん、二年の後、再び植民界に現はれんとは、氏は風の如き人である。雲の如き人である。風雲一度動けば、雷鳴り、電閃き、人を驚かす目せしむ。氏が幾多の特典を以てブラジルの植民契約を勝ち得たのは、宿昔の志を果したるものである。

つた植民地は、十數ヶ所あるが、最も大なるものは、サンパウロ鐵道の沿線にあるサン・ベルナルド植民地で、此は伊太利人、獨逸人、波蘭人などに依つて成立つてゐる。伊太利人のみで、出來てゐるのは、サンパウロ市附

近にサンカイタの植民地があり、ムジアナ鐵道沿線にはキリム植民地がある。其の他葡萄牙人、伊太利人の混合してゐるもの、伊太利人、波蘭土人、獨逸人の混合してゐるもの、伊太利人、西班牙人の混合してゐるもの、ブラジル人自身のもの等、種々の植民地がある。未だ獨立町村になつて居ない植民地も少くない。近頃人口に膾炙してゐるものは、ノヴァ・オデッサ、ノヴァ・ヨオロツパ。カンボス・サレス等であつて、カンボス・サレス植民地は、今から十四五年前に設立されたもので、ノヴァ・オデッサ植民地は、僅に六ヶ年前に創立されたもの、何れもカンピナス市の附近にある。

右に擧げた植民地は、州政府が一人から買ひ上げたものである。其處に小舎を立て、農具、牛馬、驢馬、或は種子、苗木等を備へて入地者の便宜に供へてゐる。入地者は千ミル乃至千五百ミルを以て、六アルケールの土地を得、家屋、納屋等の建築費半額の貸與を受け、牛馬等は五ヶ年賦、種子、農具などは無代價である。で、入地當時は、無資力者は開墾の傍ら、



M. T. Kamiya,  
Directeur du "Tōyō-Imin-Kwaisha" et Directeur du  
"Buraziru-Takusho-u-Kwaisha".

或は日稼ぎに出で、或は道路工事に雇はれ、又は珈琲摘みなどに従事し、其の賃銀を以て雑用に當てゝゐる。這はカンボス・サレスの一例であるが、ノヴァ・オデッサの植民地も大同小

異である。同植民地には州立の乾酪製造があり、米國製最新式の精乳機、檢乳器、製氷機を備付け、十馬力の機關で牛乳を搾取してゐる。サンパウロ市などでは、此處から出た牛乳が多量に販賣されてゐる。

最近日米問題が起ると、全國商業會議所名譽書記長として、法學博士藤田一氏と共に渡米したのは神谷忠雄氏である。氏は故佐久間三郎氏の下に久しく東洋移民會社の支配人であつたが、日本郵船會社監査役淺田氏が同社長となるや、抜かれて取締役となり、移殖民の爲に縦横の才を發揮した。東洋移民會社が、比律賓、ニエカラドニヤに、馬來半島に、大洋島に、メキシコに、アラツルに、七面八臂の觀があるのは、氏の手腕に依つて然るものが多い。氏は東洋移民會社專務取締役で、伯刺西爾拓植會社取締役を兼ねてゐる。氏は今や覆面を脱して天下の檢舞臺に立つた。今後氏の活動は、刮目して見るべきものがあるであらう。

右は主として州政府の植民地を擧げたものだが、サンパウロ州には聯合政府の植民地もある。近頃在留日本人の間に喧傳されてゐるモンソン植民地の如きはそれで、同植民地はソロカバナ線のサルト・グランデ附近で、僅に三四年前に設定されたものである。モンソン植民地には、佛蘭西、伊太利、又はブラジル人などが數百家族入つてゐるが、日本人も三十數家族入り込んでゐる。日本人が初めて入つたのは、一昨年九月で、長崎縣の某々等が、實にその率先者であつた。カンボス・サレス又はノヴァ・オデツサの如きは、市街に近く、それに交通の便もあるので、特典は寡いが、モンソン植民地はなかく、に多い。一體、モンソン植民地は、面積は方七里ばかり。區劃の中央には市街の道路は開き、其處には最早や立派な町が出来かけてゐる。道路の幅は一メートル程で、附近には植民の家屋は散在し、會堂、アルマゼン、ホテル、植民地事務所等は散在してゐる。入地者の資格は、資本の有無よりも、寧ろ家族を必要條件とし、主として人員の増殖を謀つ

てゐる。であるから同地の植民は、先づ何よりも家族である事を必要條件とする。植民は夫婦者でなければならぬ。家族ならば縦令一厘の資本が無くとも、二十五町歩(十アルケール)の土地を、農具を、家屋をが與へられ、且つ一年間の食料は、アルマゼンから供給を受くることも出来、なほ其の上、土地の開墾に、幾多の特典が附いてゐる。木の根を掘り出した丈で百レース、一アルケールの土地を畑にすれば、また賞金がある。別に日稼仕事があり、一ヶ月の半分は、日稼に出で、賃銀を取ることが出来る。日稼賃銀はカンボスサレスなどは、二ミル五百であるが、モンソン植民地は、

石原毛登馬氏



M. M. Ishihara, Conseiller légal du "Tôyô-Imjn-Kwaisha".

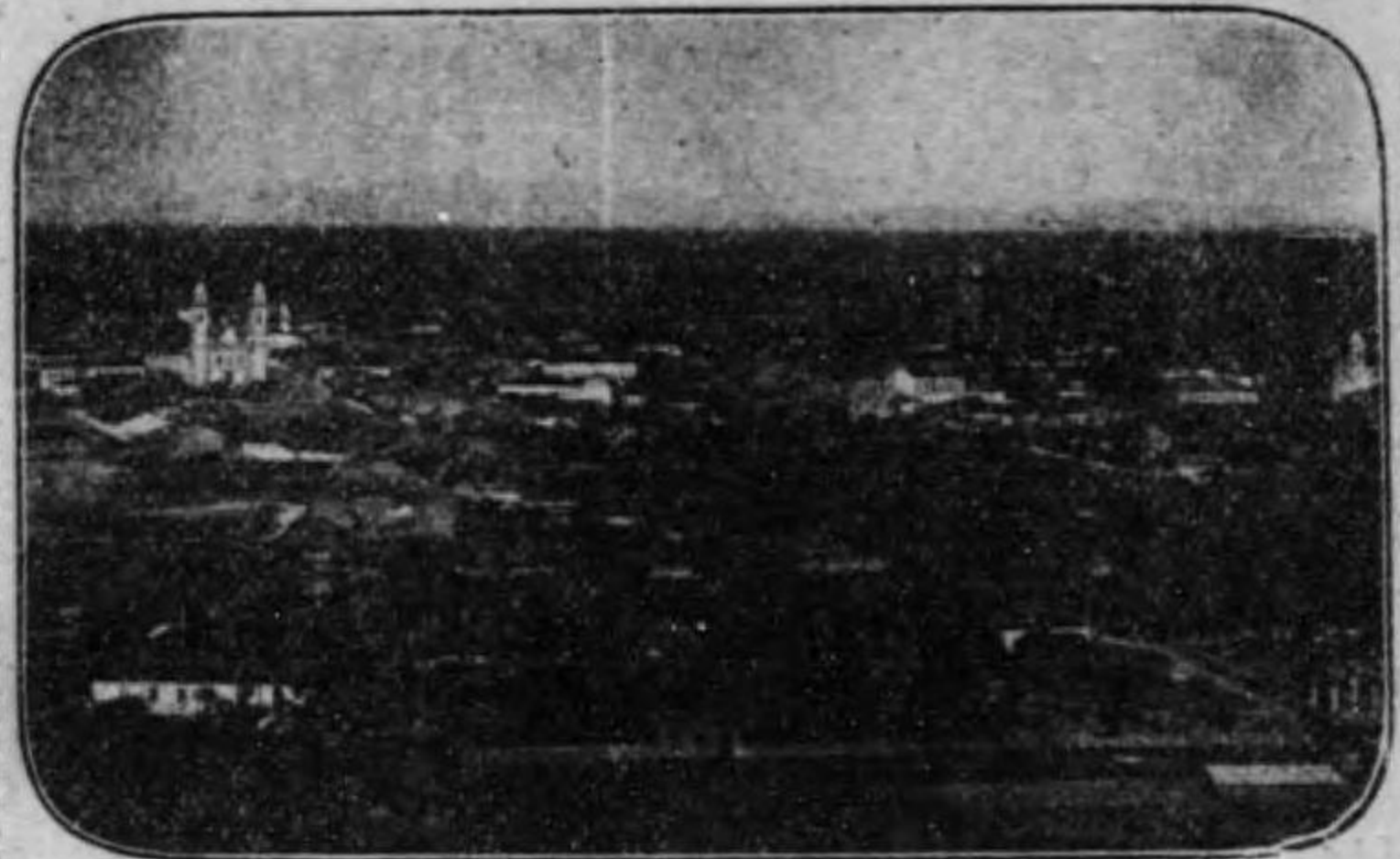
石原毛登馬氏は、東洋移民會社の法律顧問である。昨年、ブラジルに往來するや、或は咖啡耕植地に、或は植民地に、行旅を日なく、特にリベラ流域の植民地に赴き、仔細に植民地の風物を視察したのは、氏の用意の如何を見るに足る。辯護士を以てして、移民業に熱心なのは、法學界の珍といはれはなぬ。

一日四ミルである。で、此の植民地へ入る者は、一厘の資本がなくとも、家屋も、農具も、小遣も、凡ての生活上の便宜は備はつて、三五年の後は立派に土地の所有者となり得るのである。州内に多くの植民地はあるが、此のモンソンの如く入地の資格が簡単で、且つ多くの特典がある植民地は他に其の例を見ない。蓋しサンパウロ州に於ける最初の試みであるが故に中央政府は斯かる寛大なる方策を取つたものであらう。

我國では土地の所有者となるのは、容易でない。五反歩百性はいつまでも、五反歩百性である。いや、その五反歩の田地でも、ごうかするご手離す者が多い。然るにブラジルでは、農具、肥料の心配はなく、家屋土地の税金もなく、赤裸體で入つて、それで三年五年の後には、二十五町歩以上の地主となり得る。たゞ必要なのは努力と忍耐である。日本と比べたら、ブラジルの植民地は、生活の天國である。

四 日本人植民地

イグアペ全景



Vue générale de la ville d'Iguape.

イ 伯刺西爾拓植會社の計畫

伯刺西爾拓植會社は、リベイラ流域に約五萬町歩の土地をトシ、其處に

イグアペは、ブラジルで最も古い町で、又最も知られてゐる町である。之は奴隷賣買が行はれてゐた當時、奴隷の賣買市場であつたからで、一時は賑やかな町であつた。が、今はセニョイト教の古い建物が、昔日の名残を遺してゐる位のものである。一、二年一度、時ならぬ繁華を示すことがある。それは八月の初め、此の教會堂に大祭がある時である。ブラジル沿岸の港々から、特別船が出る。善男善女は、えいやく、イグアペの町に集る。音楽、爆竹、喚聲は四方から響いて、ブラジル中の繁華が、一ト塊に此のイグアペに集つたかの觀がある。イグアペが知られてゐるのは、最一ツの由がある。米作地であるからである。イグアペには、精米場あり、農學校あり、米作試験所もある。日本人植民地の入口である。

元來日本人が海外に植民地を開設するといふ例は、今迄無かつた事で、大

植民地を開  
設する事に  
なつてゐる。  
而して來年  
の春頃から  
先づ三百家  
族の人員が  
此の植民地  
へ入る事に  
なつてゐる。



ランデからイグアペに向つて流れて行く。

此の河の流域には、小市街が幾つかある。先づ上流から數へて見るに、イタペラパンは屈曲して山間の溪谷を縫つてカペラに到る。カペラ附近では、更に奔湍となり、多くの飛瀑を爲して居る。後日此のリベイラ流域に工業の起る時期があるにすれば、此處は水力電氣に利用せらるべき所である。カペラから九里弱にして(其の間急流)ポオト・ド・アピアイ云ふ小市街に達する。イボランガの附近には、種々の鑛山がある。其れより又十九里半すれば、此の流域中の大市街なるシリリカがある。シリリカからの水流は緩漫となり、レジストロを通過してイグアペに入るのである。その間三十八里、河幅は狭い所で百五十メートル、廣きは二百五十メートルである。イグアペに出るには運河に頼り、河口は其處から北の方に當つてゐる。此の河はリベイラ流域の外に、又幾筋かの支流を成してゐるが、就中ジャクピランガ河、ジューキア河などは、重なるものである。リベイラ河から、

道會社は、サントスを起點として、隣國巴拉ナ州の首府クリチバに到る鐵道の工事中であるが、此れはリベイラ流域を貫通するもので、ヘルイバ迄海岸に添ふて内地へ入り、ジューキア河へ達し得られるで有らう。

心中の地民植人本日



Centre de la colonisation japonaise au Brésil.

伯刺西爾拓植會社計畫  
キア河畔に出で、シリリカに遡るのである。現今はイグアペから小汽船でリベイラ流域のシリリカ迄を往來してゐるが、鐵道完成の暁には、日本人植民地の本部たるレジストロからは、七八時間にして



## ハ 日本人植民地の規模

ブラジルの植民地は、最初に市街の設定地が出来、道路が開かれ、次で工場が設けられる順序である。此の度も其の通りで、日本人植民地は、レヂストロを中心として、五萬町歩の間西南に向つて擴げられる筈。伯刺西爾拓植會社は、サンパウロ州政府から市街地として五十町歩の土地を與へられてゐる。恐らく日本人植民地は土地の開墾と共に、先づ第一に市街の建設に取り掛るであらう。で、此の植民地は最初は一ケ年三百家族を收容する計畫ださうだ。此の三百家族は直接に渡航する者もあらう。或は在來の移民で契約満了後此の植民地に入るものもあらう。斯くして年を追ふに従つて人口は増加し、人家は稠密となり、六七年後には、カンボスサレスの如く、或はノヴァ・オデツサの如き繁盛を呈するであらう。又數十年後には、彼のサン・レオポルドの如くブルメナウの如き大植民地となるであらう。次に會社自身の計畫を聞けるがまゝ、を擧ぐれば、先づ植民地附近に直營

の農場が開かれる。その農場は米作を主とし、黑豆、玉蜀黍などを副作物とする。相應の準備が整つてくると、精米工場が興る。製材工場もおこる。かくして順次農業試験所、又は學校、又は病院等興こる。植民地は三百區を以て第一期の配當區域とする。此の一區はやはり二十五町から成立つ。地價は最初は一町歩に付六圓五十錢で、第二年目には十二圓となり、第三年目には十九圓となる。此の植民地の特色は、第一は日本人を以て新植民地を開かんごする事。第二は米作を起さんごする事。第三は五萬町歩の面積に植民地を開かんごする事。第四は植民一口に付き旅費十六磅(約百六十圓)の償還を受くる事。第五は定着の場合には、五十家族に付十コント(邦貨六千五百圓)の植民恩典がある事等である。

## ニ 植民地周囲の光景

リベイラ河口のイグアペ附近には、伊多利人等の植民地があり。ジャ

クビランガ流域には、ポーランド人の植民地もあるが、レヂストロ附近には歐洲人はまだ多く入つてゐない。元來此のリベイラ流域は、シリリカ附近に貴金屬を産出するに云ふ事が傳説的に唱へられてゐたので、葡萄牙人等は最上三四百年以前から、砂金採集の目的で、リベイラ流域を遡つてゐた。上流のアビアイ附近に、モロド・オーロ(金山と云ふ意味)と云ふ名稱があるのも此のためであらう。

這樣的な譯で、リベイラ河口には、イグアへのやうな町も出来てゐるが、レヂストロ附近に至れば、農作物等は一切原始的狀態で、住民も寡い。ジユキリアナの上流に赴けば、グワラニーと稱する一種の印度人が住んでゐる。グワラニーの外に、葡萄牙人の雜種なるカボグラスと云ふ土人も住んでゐる。グワラニー又は雜種は、極めて穩和な人種で、多くは森林の間に住んでゐる。が、多數を占めてゐるのは、やはり葡萄牙人の子孫に印度人の血を交へたブラジル人だが、其のブラジル人も、サンパウロ市などのブ

ラシル人よりも強健な體格を持つてゐる。たゞ労働を好まぬ風があるのは遺憾である。

氣候は全體に珈琲耕地と大差はない。熱帶植物の繁茂は頗る美はしく、森林は太古さながらの姿を示して、樹木は太き蔓草を縱横に打ち纏ひ、綠蔭深く空を掩ふて、仄暗く、神韻の氣は水の如く、冷やかに漂ふてゐる。寄生木はまた非常に多く、殊に蘭科植物は盛んに寄生してゐる。果實類は、バナナ、パイナップル、オレンヂなど、重なるものであるが、野生の儘の瑞々しき梢に、球の如く重き實を垂れてゐる。林間に猿が最も多く、また豹の如き斑點を持つてゐる、臆病な山猫も多い。その他狐、栗鼠、二十日鼠、ガンバと云ふ袋鼠なども棲息する。此のガンバは時折り附近の鶏小舎を襲ふ。鳥類はあらゆるものを充たしてゐるが、中にも鸚鵡、雉子、青鷺、梟、鷹、燕、山鳩、鴨、水鶏、鷗、翡翠などは著しいものである。食用としては河水に龜がある。其處には小さな鰐魚も住んでゐるが、此れは普通の鰐

魚の如く、人を害する事はない。蜥蜴も多く、よく鶏を覗ふものである。蛇の種類も多いが、その割には毒蛇は少い。蟲には蝶の發生夥しく、世界の最も美しい、最も奇異な蝶類は居る。螢も無限にあり、寶石の如く輝く黄金蟲も無類にある。

動植物の類に、人體又は耕作に有害な物はある。第一は例の「ピシヨ」である。蠅、蟻の害もなか／＼に狂猛で、白蟻の如きは、木造建築物を食倒すこともある。スーバスゴ云ふ蟻は、野菜類を短時日の間に枯らしつくす。

總じてリベイラ流域は宛然大古の状態である。我植民は此の原始林を開いて、生活の安樂地を求むるのである。故に農作の前に開墾があり。日本の農業以上に努力と忍耐が要る。

ホ 植民地の農業

イグアペ町には製米所があり、農事試験所があり、農學校もある。米作法の如きも、相應に進歩してゐるやうだが、之はイグアペ町附近丈で、

レヂストロ附近に至れば、最う元始時代である。レヂストロ附近の土人の米作法を見るに、極めて簡易なもので、例の森林を焼き拂つた跡に木の根なごを残した儘、其處へ種を蒔き、自然に發生するのを待つてゐるこいふ有様である。其れは大抵十月乃至十二月頃に種子を下し、二月の末頃から四月の末頃までに收穫するのであるが、種子を下す時にもある。イグアペ農學校長の發表した收支計算に依れば、一町歩の收穫

時當期一第地民植人歐



Première époque des émigrants européens dans l'Etat de S. Paulo. No. I.

レヂストロ附近の土人の米作法を見るに、極めて簡易なもので、例の森林を焼き拂つた跡に木の根なごを残した儘、其處へ種を蒔き、自然に發生するのを待つてゐるこいふ有様である。其れは大抵十月乃至十二月頃に種子を下し、二月の末頃から四月の末頃までに收穫するのであるが、種子を下す時にもある。イグアペ農學校長の發表した收支計算に依れば、一町歩の收穫

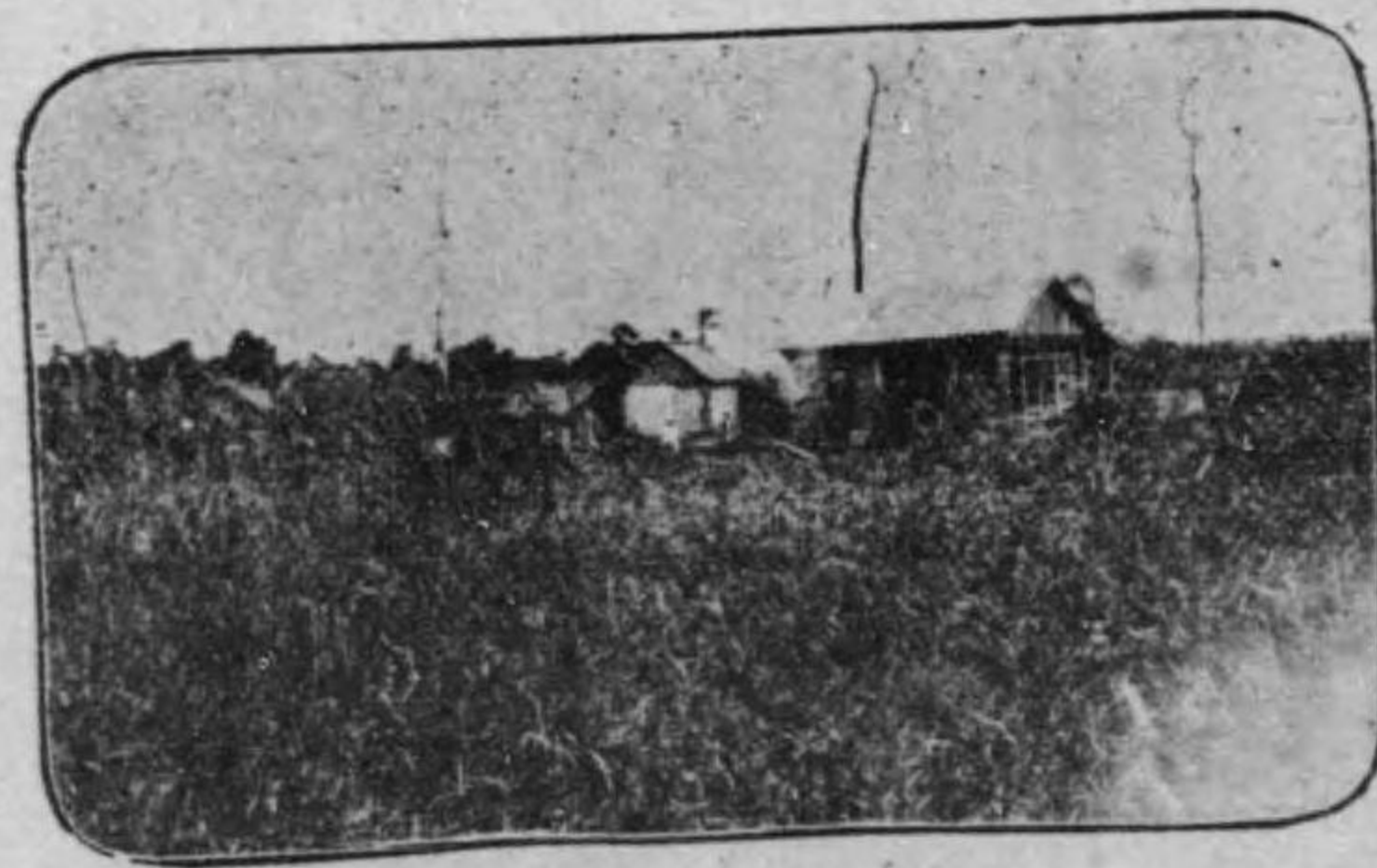
は粃十一石であるといふ。  
 米作の外、黑豆、玉蜀黍の耕作は行はれてゐる。日本人植民地は、米作を主とするものだが、必ず米作に拘泥せねばならぬ必要はあるまい。ブラジル人と同じく、有利の農作に熱心して良い。養豚、養鶏の類も結構である。又山羊などの飼養も行はるであらう。養蜂なども有望である。總じてブラジルの農業に着手せんとする者は傍に牧畜のある事を頭腦から去つてはならぬ。歐洲の俚諺に「家畜なければ肥料なし」と云ふ言葉があるが、最もよく植民地の状態を示してゐるものであらう。

五 植民成功者の實例

ブラジルは新大陸である。發見後僅に四百年、共和政體成立後二十四年しか経たない新天地である。我國の如き舊趾遺跡の類は尠いが、成功者の實例は珍らしくない。リオ・デ・ジャネイロ市が人口八十五萬に上り、南米隨一の大都會となつたのも、植民成功者の實例である。サンパウロ市が産業

都市の代表となつてゐるのも、やはり植民成功者の實例である。單に植民地自身に就て見ても、カンポス・サレス又はノオブア・オデツサなご、一個人の成功の集團である。二三の實例を擧げて見る。カンポス・サレス植民地に、フレドリツヒ・ニームス云ふ獨逸人がある。日本流の英雄でもなく、豪傑でもなく、普通の稼人である。カン

時當期二第地民殖人歐



Dernière époque des émigrants européens dans l'Etat de S. Paulo. No. II.

百ミルの物を五年賦で自分の所有とした。彼は此の一千五百ミル(邦貨約一ポス・サレスに入つたのは、今より十四年前で、當時携帶してゐた資本といつたら幾何もなかつた。が、此のニームスには無限の財源があつた。強壯な家族を持つてゐた事である。で、植民地に入るや、地代一千ミル、家屋五

千圓の代金さへ即金で支拂はれなかつたのである。爾して最初は一名に付一日六百レース宛の食費の供給を受けてゐた。然るに十四五年後の今日は、十二アルケール(三十町歩)の地主となり、牛十二頭、豚二十頭、鶏、家鴨、鶯鳥百餘羽、蜜蜂數十箱の所有者となり、前には陋ろしい小舎に蹲つてゐた彼は、獨逸風の堂々たる家屋に住み、且つ住宅の附近には倉庫、家畜場、乾酪製造所は藁を列ねてゐる。特に新築の住宅には客室があり、書齋がある。庭内には種々の花卉、果樹を植え、一部は野菜園となつてゐる。嘗て黒人を相手に樹木を伐採し、薪木をカンピナス町に賣つてゐた頃と比べたら、天地の相違である。特に稱揚すべきは、家長夫婦は固より、五六歳以上のものは、悉く労働に服してゐることである。家長ニームスは、農事の傍ら乾酪の製造に任じ、妻君と長女とは乳搾りをなし、十歳前後の兒童は、通學の傍ら養鶏等の仕事を分擔してゐる。要するにニームス一家は、平々凡々の人達である。が、努力と、勤勉とは。即ち今日の成績となつた

ものである。

カンボス・サレスに就て、最う一人の成績者を紹介する。ジュリオ・バルマンといふ一家族がある。獨逸人である。此のバルマンは、今は四十五町歩(十八アルケール)の土地所有者で、前のニームス一家より多くの面積を領してゐる。家屋は寢室六、食堂、書齋、應接室があるから、植民の家屋としては立派なものだ。それに納屋二棟つゞいてゐる。此の建物は所有地の木材を使用したもので、數人の職工を用いたのみで、バルマン自身が、家族等を率いて建築したものである。此の建物丈けでも、相應の財産である。此の外に牛馬豚羊の家畜は數十頭ある。即ち馬六頭、牛二十頭、豚三四十頭、鶏五六百羽。それに馬車、荷車等がある。單にこれ丈けでも數十コントの財産となる。なほ隣人等の風評に依れば、銀行の預金も相應にあるといふ。仔細に計算したなら、此の一家の財産は數萬圓に上るであらう。入地後十二年にして、斯の成績を示してゐるのは、寧ろ驚くべきである。

恐らく彼れは多少の財産を携へて此の植民地へ入つたものであらう。  
 伊太利人にも成績ある植民は多数ある。ノウブア・オデアサ植民地のア  
 ーロオ・ピユニイの如きは其れである。同人は十數年前に渡航したものが、  
 ノウブア・オデアサ植民地に入つたのは僅は五年前に過ぎぬ。然るに農場に  
 は玉蜀黍、米、甘蔗、黑豆等を作り、牛馬數十頭、豚二十數頭、鶏五六  
 羽を放飼し、且つ二コント以上を要したといふ煉瓦建の家屋と、納屋二  
 棟の所有者となつてゐる。僅に五ヶ年以前の入地者としては成績ある方  
 である。おそらく相應の準備を以て入地したものであらう。又家族の人員が  
 多かつたのも、早く成業した一原因であらう。  
 植民移住者ではないが、別種類の成功者を紹介する。それは前に寫眞を  
 掲げた、グアタバラ耕地の總支配人ジヨセフ・サルトルス氏である。グアタ  
 バラ耕地といへば、總支配人の位置はサンパウロ州隨一流のもので、其の俸  
 給は、一ヶ年數十コントで、日本の大臣以上である。別に所有耕地もある。

資産總高は、優に州内の分限長者と匹敵する。然かも素と同氏は眇たる一  
 大工であつた。數十年前、飄然としてサンパウロ州に入り、一日數ミルの  
 職工となつてゐたが、その後サンパウロ州の舊家ブラド家の信任を受け、  
 遂に總支配  
 人の位置に  
 進んだもの  
 である。嘗  
 て今より十  
 數年前、初  
 めて郷里に  
 り、隣人の誰彼は、孰づれも同氏の顔を忘れてゐたさうだ。日本から視察  
 員などが訪問するに、自宅の食堂に導き、葡萄酒などを饗應しつゝ、何時  
 も斯の挿話を語つて打興する。此のサルトルス氏の如きは、伊太利の中

△リオ・グランデ・ド・スール州の伊太利人植民地 (一)  
 明治四十三年六月三日、伊太利人の植民地、カンパス區に入る。伊人部落に  
 來れば、形勢一變し、家屋は孰れも木造にして、構造亦粗末なり。白壁又は  
 ペンキ塗の家は、市街の外之を見ず。彼等は家の圍りに、樹木を植ふる。又  
 庭園を作らず、伊人は住居に對し、全く没趣味なるが如し、主要産物は葡萄  
 酒にして、葡萄樹は各農家に設けらる。今や收穫後にして、たゞ蔓の殘存す  
 るのみならず、收穫前は香氣芬々として、而かも頗る美觀なりとせば、左も  
 るべし。玉蜀黍の栽培亦盛なり。獨人は運搬にミユールを用ゆるもの多し、  
 伊人は馬を用ゆ。獨人は家を飼ふてラードを造り、伊人は葡萄を植えて酒を  
 造る。兩人種の爲す所皆異れり。(青柳都太郎氏伯刺西爾旅行の一節)

歸省したと  
 があつた。  
 二十幾年ぶ  
 りであつた。  
 その時は父  
 母はもう天  
 上の人とな

も成功してゐる人である。日本移民の最も多く入り込んでゐるグアタバラ耕地の總支配人であるから、同氏の成績は日本人に取つて最も興味を以つて迎へられるであらう。

サンタ・カエター(サンパウロ市附近)、サン・ベルナルド(サンパウロ鐵道沿線)等の植民地には、成績ある植民は多數ある。珈琲耕主として基礎を据ゑてゐる伊太利人も、なかく多い。アムバロ町附近の小耕主は、半ば伊太利人で、皆一介の移民から仕上げたものである。カンピナス市の中程に、伊太利人共同の俱樂部がある。伊太利人の勤勉、忍耐は、此の建物の上に、きら／＼と閃いてゐる。

終りに、最も偉大な成功者を掲げる。今から五十四五年前、老人夫婦に伴はれて來た八歳の兒童がある。獨逸人である。當時珈琲業はまだ隆昌ならぬ頃であつた。共和政治も行はれず、黒人の奴隷は四方に散在してゐた。老人夫婦は、如何なる仕事に従事してゐたか判然しないが、奴隷と大

差のない一移民であつたのは争はれぬ事實である。此の八歳の兒童は、父の傍らにありて、常に身體を鍛へてゐた。今こそは植民教育は行はれてゐるが當時は教育を受くる便宜だもななく、野育ち

△リオ・グランデ・ド・スール州の伊太利人植民地(二)  
カシアス區の人口は約四萬、カシアス町の人口は凡そ六千人あり、此の附近には小規模ながら、毛織物織造工場及び製粉製造所あり。近頃一銀行の支店開設せらる。此の日織物工場を見る。五年前の設立にして、數臺の織機を置き、持主は新織機買入の爲め伊太利に歸り、不在なりしが、職工長らしき者の語る所に依れば、原料不足の爲め、營業未だ振はず、創業の當初は僅に五キロの絹糸を得たるのみなりしが、漸次増加し、昨年は百五十キロを得たりと。而して附近の農家に對し、桑樹の栽培を奨励しつゝあり。製品は肩掛、ハンケチ、服地等にして、現に織りつゝありし肩掛を指し、此の品一個七十五ミルリス(邦貨四十九圓)賣なりと誇るの色ありき。次で製粉製造所を見る。持主は二十二年前一文にて此地に移住せる伊太利人なるが、勤勉にして才覚ある男なるが爲め、漸やく産を興し、當製造所を有するに至れり。傍らの小瀑布を利用し、水力電氣に依り、機械を運轉せるが、是等の設備も専門家に依らず、總て彼自心の工風に成れりといふ。製粉師の所に拘はる葡萄酒醸造所を見る。葡萄酒及び林檎酒を造る。昨年の醸造高五萬瓶なりしと。試験的に飲めさいふより、杯を取り上げしに、一杯又一杯、際なく勤めらるゝに勿々逃し出せり。青柳郁太郎氏、伯刺西爾旅行の一節

に育つてゐた。が、焉んぞ知らん、五十年の後には、斯の野生の兒は、サンパウロ州第一の大耕主ならんとは。此の兒童こそ

は餘人ではない、今は珈琲王と云はれて、サンパウロ州に旭日の如く輝い

てゐるフランシスコ・シミット翁其の人の少年時代である。

フランシスコ・シミット翁の兩親が、サンパウロ州に辿りついた頃は、僅にカンピナス附近に小規模の珈琲耕地が、彼方此方に散在してゐた丈けであつた。兩親は珈琲園に入つたので、彼も少年當時から、海棠のやうな梨のやうな花の咲く珈琲の樹の間で、少年時代を送つた。珈琲が大暴落した時、彼は兩親にすゝめて、貯金を舉げて耕地を購はしめた。其の後機會を見ては耕地を購つてゐたが、景氣が直る毎に其の耕地を轉買してゐた。恰もリベイロン・プレトオ附近に珈琲業興り、ペーシヨート氏(第二期大統領)アルベス氏(第四期大統領)等が、サンパウロ州より出て、聯合政府大統領となるや、珈琲業の奨励に力め、リベイロン・プレトオ町は珈琲業の中心となつて來た。シミットの身上は、リベイロン・プレトオ町の發展と共に膨脹したのだ。で、シミット翁所有の面積及樹數を擧ぐれば、既墾地未墾地總面積九萬町歩、珈琲樹數八百萬本、別に甘蔗畑七百八十町歩、牧牛三千頭

珈琲王の稱空しからずである。

シミット耕地の本部は、モンテ・アレグレに置かれてある。大小數十の耕地には、婿養子又は近親を配置し、リベイロン・プレトオ町から、耕地専用の輕便鐵道が敷かれてある。モンテ・アレグレ停車場附近に、てつぶりこ太ごつた、丈けの短かい老人を屢々見受ける。荷馬車を曳いた移民家族に逢へば、ブラジル語で、ボンデア(お早う)と挨拶して過ぎゆく。之は珈琲王シミット翁其の人なのである。單に路上のシミット翁を見れば、其處等の百性と異らぬ。モンテ・アレグレの邸宅でも其様で、客室、應接室などは、輪奐の美を凝してあるが、老夫人を初め、家族の衣類は一切綿服で、華美の風はちツとも見えぬ。思うにシミット翁の一族は、眞面目に仕上げて來た人達であらう。



## 第十二 工業

## 一 機械工業

電汽力を使用してゐる工業には、まづ製粉業を擧げなければならぬ。サンパウロ州の大小市街には到る處製粉工場がある。サンパウロ市のマツタラソオ工場は優なるもので、電力をサンパウロ市街電燈會社の供給に受け、數十哩の地に發電所がある。使用の小麥は皆ラ・プラタ方面から輸入されてゐる。小麥のみならず、米又は玉蜀黍を使用されてゐる。珈琲耕地にも製粉業が興つてゐる。麵麩、マカロニ製造工業もある。殊に製菓業は、佛國人の經營を以て行はれ、アルゼンチン等に輸出されてゐる。其の數は多くないが、イグアペ地方に精米業がある。機械の裝置、工場の設備に見るべきものがある。最も見るべきは麥酒業で、特にコンデ・アスドルバル、ナツシメント氏を社長としてゐるアンタルチカの麥酒業の如き、其の組織規

模は、歐州諸國のものに多く譲らぬ。アンタルチカの庭園は、麥酒業廣告の爲に出來たものである。

盛大の域に入らんとしてゐるのは、棉布紡績業である。サンパウロ市に初めて工業を見たのは棉布業で、今から四十幾年前であつた。エス・ルイブの工場がそれである。蓋し中央政府が棉花及棉絲の輸入に高度の關稅を課してゐるのは、單に歳入を裕にせんが爲めばかりでない。亦國內に於ける斯業發達の爲に外ならぬ。故に最も早く興つたのは此の紡績綿布業であつた。リオ・デ・ジャネイロ、バイヤ、ペルナンブコ州、到る處此の紡績業が興つてゐる。サンパウロ州の紡績綿布業は、原料はサンパウロ州産出のものもあるが、多くは北部地方から輸入してゐる。耕地用敷布又は珈琲袋の織物は、サンパウロ市工業の一である。十年以前に興り、アラミナス工場は最も有名である。

サンパウロ市に異彩を放つてゐるのは、皮革工業で、佛蘭西人の經營で

ある。靴工業も佛國人經營のものがある。家屋の増築と関連して、近頃人目を惹いて来たのは、煉化、セメント及び製材工場である。就中盛大であるのは、製材業で、到る處に製材工場がある。蓋し鬱鬱たる森林は、大古の儘に放棄されてあるが、木材の高價は驚くべきで、耕地の移民家屋が或は土間の儘にされてあるのも、木材が高い爲めである。鐵工業もポツ／＼興つて来た。馬蹄鐵の製造なども有望であらう。

## 二 手工業

機械力又は電氣力を使用せる工業は、前掲の如く比較的隆昌の趣がある。が、比較的未熟の状態にあるのは、手藝又は手工業である。思ふに賃銀の不廉なるご、手先の不器用なる爲である。

余は工藝の未熟なる一例として、爰に余自身に拘はる實驗談を挿んでおく。余は日本出發の際、天賞堂から十五年保險付の懷中時計一個を求め、渡航の途についた。如何にしけん、神戸出發後數日にして、器械に故障が

生じた。サンパウロ市到着後、某時計店に就き修繕方を依頼したるに、驚くべし、其修繕料は八ミル(五圓六十錢)であつた。但し其の修繕にして十分であつたら、八ミルの料金も意に介すべきでないが、一二日にして從來の儘となり、やはり甲斐がなかつた。再び時計店に交渉したが埒明かず、遂に郵便に托して、日本に還した。サンパウロ市の時計職工は、此の輕易な時計の修繕さへ十分の技術を具へないのである。或は偶々斯の如き不熟の時計店に出會したのだといへば、其れ迄だが、サンベントに商店を飾つてある店であつて見れば、相應の時計職工を備つてあるものを見ねばならぬ。尙ほ且つ斯うだから、余は、時計に關するサンパウロ市の技術を疑はざるを得なかつた。其の他寫眞の如き、洗濯の如き、裁縫の如き、又は理髮の如き、此の時計的である。特に缺いてゐるのは、美術的又は科學的技藝である。醫師、畫工、寫眞師、機械師又は電氣技手等が、多額の賃銀を取つてゐるのは、畢竟技藝と熟練とを缺いてゐる爲めである。

近頃日本人の間に、工業の利益が着目されて来たのは、喜ぶべき現象である。殊に藤崎商會の如き、商業部の外に工業部を設け、竹器、扇子、屏風類の製作に手を分ち初めた。同商會の店頭に陳べられてある竹器屏風の類は、皆同工業部で製作されたものである。紙製玩具の製作も、日本人工業の一である。日本貿易會社の工業部も、扇子類の製造に取掛り初めた。ブラジル南部の獨逸人は、鐵器その他の製造工業を以つて、サンレオホルト、或はブルメナウの市街を賑はせてゐる。日本人の技藝と機敏とは、世界の許す所である。單純なる珈琲採取にさへ、日本人の器用と細心とが露はれてゐる。原料と職工を送り、工業を以て、貿易の不足を補うのが寧ろ今日の急務であらう。

### 第十三 商 業

#### 一 ブラジル市場の歐米商品

ブラジルの外國貿易は、輸出入總計七億圓に上つてゐる。其中輸出は三億四千萬圓、輸入は三億七千萬圓で、貿易總額では我國に劣つてゐるが、(我貿易總額は十一億四千萬圓)、人口に割當れば、ブラジルは遙に我國に優つてゐる。輸出品は珈琲第一にして、輸出總額の百分の五十三を占め、護謨は第二に位し、百分の二十三を占めてゐる。其の他棉、煙草、マテ茶、砂糖等は重要輸出品である。輸出國は第一、北米合衆國。第二、英吉利。第三、獨逸。第四、佛蘭西と云ふ順である。

輸入品は製造品及び食料品は最も多し。工業用原料品は、近年増加の傾向はあるが、まだ尠い。

輸入品目を舉ぐれば、既製製品は木棉及綿製品、鐵製品、機械器具、化

學工藝品、皮革及其の製品、護謨製品、紙類、陶磁器及硝子類、リネン、絹製品、毛及其製品の類で、食料品は小麦及び小麦粉を筆頭として、牛酪、乾酪、乾牛、米、鱈、馬鈴薯、葡萄酒の類である。石炭の輸入も相應にある。輸入國は、第一英吉利、第二獨逸、第三北米合衆國、第四佛蘭西、次に亞爾然丁、葡萄牙に云ふ順である。因に、近年著しく頭角を擡げて來たのは、北米合衆國で、現に昨年の如き英國の輸入品は、再昨年比し、四分の減少、獨逸は僅に五厘の増加に過ぎないのに、北米合衆國からの輸入額は、頓に増加して、二割三分の増加であつた。今後ますます此の傾向は甚しくなるであらう。

單に輸入品目だけでは、英國商品は最も價格を占めてゐる。が、英國品は石炭又は機械器具の類で、雜貨類は獨逸商品多く、美術粧飾品は佛國商品多く、移民用品は伊太利商品が多い。又商人の顔觸から云へば、電気、機械、船舶等の大商人は英國人、美術的商人は佛蘭西人で、デパートメン

ト・ストア等の經營は、獨逸商人が多い。リオ・デ・シヤネイロ市では、葡萄牙人が幅を利かせ、サンパウロ市では、伊太利商人は多數を占めてゐる。行

△南米貿易の第一人、藤崎三郎助氏

東京四谷見付附近、市ヶ谷寄の堀端に、巍然として、洋館の建つてゐるのは、宮城縣の富家藤崎三郎助氏の邸宅である。藤崎三郎助氏は、鹽水港精糖會社の常務取締役、伯朝西爾拓植會社の大株主、我國に於て有数の事業家であるが、單に事業家としては、藤崎氏に比すべき人は我國に多い。併しながら南米貿易家としては、我國第一の人で、殆ど同氏に比すべき人を見ない。藤崎會社が、サンパウロ市を根據地として、リオ・デ・シヤネイロ、レシイフ、サレプアドル、其他ブラジル諸州に、商權を張つてゐるのは、本文に紹介した如くである。而して皆是れ藤崎氏の資本に依つて成つてゐるもので、ブラジルの日本貿易は、全く氏の掌中に落ちてゐるものといはなければならぬ。のみならず、別に藤松組の名を以て、アルゼンチンの貿易に手を分ち、毎年百萬圓以上の絹織物を、同國に輸出しつゝあり。即ち南米大西洋沿岸に於ては我國の貿易は、半ば藤崎氏の勢力下にあるものといつて可くない。蓋し日本貿易は、殆ど横濱神戸等外人の手に依つて行はれてゐるもので、嚴格にいへば、一種の内地貿易である。居ればり貿易者である。特に南米大西洋岸に、貿易を試むる者の如きは、殆ど稀である。寧ろ絶無である。故に我事業界では、藤崎氏の如きは、必ずしも異さすべきでないが、南米貿易家としては、藤崎氏は實に天下一品である。余は藤崎氏の勇氣に感ひ、大に南米に雄飛せんことを我が貿易家に望むものである。

商は土耳其人の繩張である。ブラジルの大市場は、やはり首府のリオ・デ・シヤネイロ市は第一で、サン

パウロ市は第二である。レシファイ市(ブルナンブコ)は第三で、サルブアドル(バイヤ)は第四である。アマゾン流域のマナオス、又はベレンなども、好市場である。

近頃眼について来たのは、伊太利商品で、特に珈琲耕地では、伊太利品はなか／＼勢力がある。伊太利雑誌に依れば、伊太利の輸入額は、一ヶ年に付一千七百五十九萬リラ(二リラは我三十八錢七厘)ちよこ六百萬圓内外である。實際の輸入額は更に多いに相違ない。二十年前にはブイニヨ(伊太利の葡萄酒)二壘の代價二十ミルであつた。近頃は一壘一ミル以下で購はれる。マカロン(餛飩の如きもの)の如きも、今は殆どブラジル人の常食のやうに爲つてゐる。ブラジル南部では、獨逸商品の輸入は、驚くべき價格に上つてゐる。移民は貿易の急先鋒である。サンパウロ州の伊太利品、リオ・グランデ・ド・スール州の獨逸品は、二者の關係を説明しつゝあるものである。

ニ ブラジル市場の日本商品

ブラジルの市場に日本品が入つたのは、日露戦役以後である。最も英國又は佛國等より輸入つてゐたかも知れぬが、ブラジル人が明らかに日本品

△藤崎商會支配人、野間貞次郎氏

日露戦役後問もなく、數名の青年を率ひ、ブラジル貿易の目的を抱いて、神戸港を發したのには、野間貞次郎氏であつた。今こそブラジルの名は、普く世間に知られてゐるが、三十七八年の頃は、ブラジルの名を知つてゐるものは殆どなかつた。或は移植民の有望を知つた者はあつたが、ブラジルの貿易を思ひ立たずはなかつた。たゞ世間は戦勝の景氣に、わやくと浮かれてゐたのだ。然るに野間氏は、決然として南米往航の途に就いたのである。時に明治三十八年五月であつた。野間氏の首途は必ずしも光明を以てのみ輝いてゐなかつた。家には長病の細君があつた。七十以上の老母もゐた。氏は此の病妻と老母を後にして、日本を去つたのである。前にはブラジルの希望があつたが、航海中の夢は、常に故山に走つてゐたであらう。マルセイユに着いたのは、翌々月の一日であつた。恰かも南米行の船舶あり、直にブラジルを指して、マルセイユを發したが、日本出發の當時は、マルセイユで持久戦、いや自炊生活の覺悟を定めてゐたものだ。で、十數日の後、サントス港に着たが、サントスで日本より受取つた第一の電報は、夫人永眠の報道であつた。目的港に着し、ほつそと息つく間もあらず、愛妻の兇報に接した野間氏の心事は想像に餘りある。然かも氏は勇氣を鼓して、サンパウロ市に入つたのである。

を知つて来たのは、日露戦役以後である。具體的にいへば、藤崎商會設立以後である。が、目今幾何の日本品が入つて居るかといふに、日本より直

接輸入されてゐる商品は、年に増加しつつあるが、税關表に依れば、まだ大した價格となつてをらぬ。併しながら英、獨、佛等の歐州諸國より再輸入されてゐる分を擧ぐれば、相應の巨額となつてゐるに相違ない。現にリオ市又はサンパウロ市の歐人商店、又はブラジル人商店には、日本産の絹織物或は花筵或は麥稈類は、所在に見えてゐる。

で、日本輸入品で、筆頭を占めてゐるのは陶器類である。或は日伯貿易は陶器貿易であるといふこともできるであらう。陶器の種類は珈琲皿あり、珈琲茶碗あり、花瓶あり、大小様々であるが、日本品と云へば、直ぐ陶器類を思ひ出す。陶器類に次では、絹物類である。多くはハンケチ類で、其の他縮緬の刺繡したもの(ネクタイなども含まれてゐる)寢臺掛け、枕掛け、皿敷等、室内粧飾品様々である。但し絹織物の關稅は減法高く、關稅倒れになる憂がある。漆器類も相應に客足がある。殊に寫眞ブック、柴山細工など。或は獨逸などからも日本品として輸入されてゐるものもある。麥稈

眞田は、伊太利又は獨逸を経て輸入されてゐる。

絹張扇子又は紙扇子も賣行がある。西班牙から日本の模造品が入つてゐる。竹細工は近頃彼地で製作されるので、同品の輸入は皆無となつた。花

△藤崎商會支配人、野間貞次郎氏(二)

サンパウロ市に入りて數日、直にサンベントオの今の場所(店)を開いた。サンパウロ州では當時練習生がいたので、他に一名の日本人も居なかつた。日露戰役後の事として、ブラジル人が日本の名に好奇心を持つてゐる際、白羽織、珍妙不思議な服装で賣出したので、サンパウロ市一パイの評判となり、開業當時一二週間は千客萬來であつた。餘りに雜沓するので、巡査の番を請うた位である。で、仕舞には秋茶碗さへ三四ミルで賣れたさうだ。一二ヶ月の後は、携帶の商品は、すつかり賣りはたいした。藤崎商會の開業當時は、こんな勢であつた。前途の見込は、精立ち、野間氏が日本に歸朝したのは、四十年八月であつた。今は四谷鹽町の洋館に參謀部を置き、一切の指揮に任じてゐるが、藤崎商會の今日の成功は、藤崎氏の資力と、後藤氏の機敏とにあるは言ふ迄もないが、亦た野間氏が、ブラウルに商店を開いた幸先の功が與つて多いのである。事業の成功は共同にあり。相信じて展らざるにあり。藤崎商會の今日の成績は、藤崎氏の寛容と、野間氏の識見と、後藤氏の誠實とが渾然一致した結果に外ならぬ。是許思案の連中は、深く鑑みて欲しい。野間氏は三重縣の人、高等商業學校出身である。

筵は關稅が高いにも拘らず、倫敦を経て輸入されてゐる。其の他玩具類が多い。數量より云へば、陶器に次では、玩具類であらう。

右は大體の紹介である。或は歐米の輸入品でも、伊太利人等の商店に、日本製と稱してゐるのを見るのが多い。ブラジル産又は印度産の米に、ジヤボンアロスと名け、硝子類にさへ麗々しく日本製の文字を現はしてゐる。日本品は精巧品の別名稱となつてゐるの體である。ブラジル市場の日本品はまた實用品は尠く、多くは粧飾品又は贅澤品の類である。要するに日本品が歓迎されて居るのは、日本品特有の趣味が歓迎されてゐるので、畢竟ブラジル人の好奇心に投じてゐるに過ぎぬ。

### 三 移民向商品

北米西海岸又は布哇諸島の日本品を見るに歐米人向きの製品も多いが、日本人向、一名移民向の商品は、随分入つてゐる。就中食料品は、大抵日本人向商品である。玄米、海産物、鹽魚、乾貝、清酒、醬油、味噌、素麵、罐詰類は殆ど移民向商品である。

ブラジル市場の日本商品は、悉くブラジル人向であるが、第三回移民後

は、幾分づゝ日本人向商品が輸入されて來た。清酒、醬油、罐詰類位のものだが、要用は相應にある。特に大工道具——鋸、鑿、曲尺、鍍、墨壺等の輸入は、異彩を放つてゐる。移民の増加と共に、此の移民向商品は増加するであらう。就中輸入増加の見込があるのは食料品である。布哇然り、桑港附近然り、沙都附近同じく然り、獨りブラジルは此の實例以外に出づる事は出來まい。草履、齒磨粉等も輸入されてゐる。

### 四 日本人商店

リオ市又はサンパウロ市に、日本商人は幾人も居る。が、多くは卸賣又は行商の類で、商業街に小賣店を開いてゐるものは殆どない。歐人商店と肩を駢べてゐるのは、サンパウロ市の藤崎商會丈である。之は店舗の屋賃店員の給料に多大の経費が掛かるからである。現に間口三間奥行六七間の店舗でも、屋賃は一月六百ミルレースである。日本金の四百圓である。之に店員六七名、番頭格の給料は、一月三百ミル(邦貨二百圓)、十六七歳

の丁稚小僧と云へども六七十ミル(四十圓乃至四十五圓)の給料を取つてゐるから、單に店員の給料丈けでも、七八百ミル(邦貨四百五十五圓乃至五百二十圓)の多額となる。爾餘の雜費を計算したら、店の維持費丈けでも毎月二千圓以上となるであらう。故に日本商人が殊更小賣店を避け、卸賣に従事するのも、畢竟此の經費に堪へない爲めである。

ブラジルでは、日本人の商店を見たのは、一二に止らなかつた。特にリオ市の日伯商會の如き、アベニード・セントラルに一時日の出の勢であつたが、永續したのは少い。で、目下日本人の中心となり、日本商人の面目を背負つてゐるのは、サンパウロ市の藤崎商會である。同商會は野間貞次郎氏は、藤崎氏の後援に依り、開いたもので、實に明治三十九年七月であつた。爾來七年、現支店長後藤武夫氏に至りて今日の盛大となつたものである。同商會は、更に卸賣業に手を擴げ、リオ市を初め、バイヤ、ペルナンブコに支店を有し、リオ・グランデ・ド・スールに出張所を設け、陶器雜貨及び

行部がある。藤崎商會は殆ど日本人の面目を代表して居るやの觀がある。

後藤武夫氏



M. T. Gotô.  
 Directeur de succursile du  
 "Fujizaki-Shōkwaï," au Brésil.

ブラジルは世界の青年である。サンパウロはブラジルの青年である。此の青年のサンパウロ市で、阿修羅の如き活動を試みてゐるのは後藤武夫氏である。後藤氏は八九年前の渡航者で、野間氏と同行して往航した一人である。野間氏の歸朝後、佐藤氏を助けて、店務に従事し、佐藤氏の逝去後、拔かれて藤崎商會支店長となつたもので、時に僅に二十五歳であつた。後藤氏は支店長となるや、藤崎商會の面目は一新した。同商會が各地方に支店又は出張所を設けたのは、後藤氏の就任以後である。工業部又は銀行部に異彩を發したのも、後藤氏の處置宜しきを得た結果である。今は二十七八歳の青年を以て、在留日本人の代表的人物となつてゐる。青年のブラジルに、後藤氏があるのは對照の宜しきを得たものであるまいか。後藤氏は岡山縣の人、大阪商業學校の出身である。因に、藤崎商會に、有川新吉氏あり、鹿兒嶋縣の人、同じく八九年前の渡航者である。曩に上塚氏を助けて、例の「花返へし」の製作に從事してゐたが、半頃藤崎商會に入り、主として北部の開発に任じてゐる。バイヤ又はペルナンブコに藤崎商會の名が輝やいてゐるのは、全く有川氏の方である。後藤氏は好伴侶を得たものである。

絹物類の卸賣に異彩を放つてゐる。のみならず、遙にアマゾン流域に手を擴ろげ、同地方の日本人行商に商品を送つて居る。別に工業部があり、銀



別にリオ市に日本貿易會社出張所がある。主として卸賣業に従事し、傍ら扇子其の他の工業に手を分つてゐる。貿易部主任は豊島昌氏(外國語學校工業部主任は明徳梅吉氏である。蜂谷商會も卸賣業に稍々基礎を築いてゐる。外人で日本商品を扱つてゐるのは、リオ市のバザー・アメリカ、サンパウロ市のロジャド・ジャボンで、特にバザー・アメリカは、年一年に盛大に赴きつゝあり。バザー・アメリカ東京支店の主任は、水嶋峻一郎氏で、ブラジル通の一人である。

##### 五 アルマゼン

サンパウロ州では、耕地附近でも、又た人家が密集してゐない。植民地でも、屹度アルマゼンがある。アルマゼンと云ふのは、日本流に云へば萬屋で、サンパウロ市など、町の曲角に能くある。此のアルマゼンは、入口の片隅に卓子を置き、一杯酒が飲めるやうになつてゐる。町端れのアルマゼンは、大抵酒屋を兼ねてゐる。で、店頭に駢んで居る商品は、メリケン

粉、砂糖、鹽、珈琲、豆、米、乾鱈、玉葱、馬鈴薯、豚油、椰子油、マンデオカ、サラミ等の食料品を初め、煙草もあり、石鹼もあり、蠟燭もある。別に朝夕麵麩を配達してゐるものもある。町端れのアルマゼンには、看板代りに、箒を店端にぶら下げてゐる。此のアルマゼンは、伊太利人の繩張で、附近に四五十軒の家屋があれば、相應の利益があるといふ。移民として往航し、二三千圓の貯金が出来れば、大抵此のアルマゼンに取りかゝる。伊太利人の發展は、アルマゼンの發展とも云はるゝであらう。ブラス停車場附近の伊太利人商店は、此のアルマゼンの發達したものである。アルマゼン開店の費用を擧ぐれば、規模の大小に依つて相違はあるが、造作、商品買入、屋賃を合せ、二コント(二千三百圓)は要る。造作代は五百ミル以上、屋賃は毎月二百ミル、殘餘の資本は商品の買入に充つ。商品の中最も價格を占むるのは、酒類で、四五百ミルは此の酒類買入にかゝる。次は食料品である。店員は二三名を使役してゐるものもあるが、町端れのは

夫婦共稼で、若い細君の愛嬌は、商賣繁昌の本である。その他税金がある。なほ規模を大にするに、三四コント(二千圓乃至二千五百圓)内外は掛かる。余は日本人の中にも、此のアルマゼンに注目する者の出んを望む。或は移民の生産物を集め、大販賣者又は市場に卸してゐる者もある。仲買業類似のものだ。或は同國人數十名、又は數百名連合し、購賣組合を起してゐるものもある。獨逸人の間に最も行はれてゐる。生産者も消費者との中間に立つてゐるもので、一種のアルマゼンである。同縣人の集合してゐる耕地附近には、最も適當のものであらう。

六行商

ブラジルの行商は、殆ど土耳其人の手に占められてゐる。如何なる小市街に於ても、竹を鳴らしつゝ、住還を行商してゐる土耳其人が見えないことはない。毛織物類の行商は多いが、又化粧品、玩具類等の行商もある。晴雨に拘らず、竹の響を聞かね日こてはない。近頃日本人の間にも、行商が出

一の「タスリサパーエフカ」



Etablissement du "Café Paulista" à Tokio.

日伯貿易といつても、日本の輸出は、伯刺西爾の輸入は、強て擧ぐれば、パラの護謨が英國を経由して輸入されてゐるだけである。或はヘルナンデスの花がやはり英國から我市場に輸入されたさうだが、した數量ではあるまい。貿易の名があつて賣なく、白紙同様であるのは、日伯貿易の現状である。此の白紙に意味を彩らんとしてゐるのは、カフエー・パウリスである。パウリスの創設以後、間もなく南洋産の咖啡を我市場より運送したのは理りである。

擴く普が具玩

て來た。リオ市の行商は、リオ州を根據地として、ミナスゼライス州まで出掛け、サンパウロ市の行商は、南部のリオグランデ・ド・スールへまで遠征する。中には成績を擧げてゐる者もある。アマゾン流域に行商してゐる松下正彦氏一行の如きはそれである。同人は日本人行商の元祖で、花返しのつたのは、全く同人が風雨寒暖の別なく、内地を行商した庇蔭である。目今サンパウロ又はリオ州に行はれてゐる行商は、陶器の専門、玩具の専門、二種類ある。最も陶器専門でも、傍ら絹物を携へ、玩具専門の

行商でも、やはり陶器類を携へてゐるが、大體に於て此の二種類に分れてゐる。就中成績を博してゐるのは、サントス港の赤山某で、今は相應に顔を賣つてゐる。

行商に最も煩はしいのは、税金である。市街に依つて相違がある。サンパウロ市では、絹ハンケチは六ヶ月で、二百ミル。陶器は百五十ミル。玩具は一ケ年百十五ミル。其れがカンピナスでは變り、リベイロンプレトオへ赴けば又々變る。その地方々々で、市役所へ規定の税金を拂う筈になつてゐる。若し届出を怠る時は、税金の二倍乃至三倍の罰金がある。

行商に必要な資格は、第一言語、第二氣轉である。日本人行商は言語は流暢でないが、氣轉で言語の不十分を補うてゐる。町の眞中に突立ち、多勢の子供を集めて、巧に賣捌いてゐる。日本人は必ずしも行商に不適當な國民ではない。が、缺點とすべきは、忍耐に乏しい一事である。賣行の良い時は快活無比、活潑潑地であるが、賣れぬ時はから駄目、急に悲觀に

日本人にあらずして、土耳其人である。土耳其人がサンパウロ州の行商に

二の「タスリウパーエフカ」



Intérieur du "Café Paulista" à Tokio.

其の熱き地獄の如く、其の黒き鬼の如く、其の甘き感の如しとは、南歐詩人が珈琲を賛美した詩である。カフエー・パウリスタが、東京市に創設されたのは、明治四十四年十一月であつた。東京人は此の新式の珈琲店に、驚異の眼を欲てた。歐米の空氣、歐米の思潮、歐米の趣味を喜ぶ者は、カフエー・パウリスタになだれ込む。カフエー何々と稱せる、怪しげな珈琲店が所在に出来たのは、皆なカフエー・パウリスタの響に倣つたものである。カフエー・パウリスタは、今や銀座街附近の一名物となり、新しき東京人の日常行事の一となつて来た。

陥る。土耳其人はのろくしてゐる。機敏は到底日本人に及ばぬ。言語も流暢さいへぬ。が、其の日々の成績に心を動かさず、何時迄も行商を

續ける忍耐は、日本人の及ばざる所である。故に一日の成績を以てせば、土耳其は不成績である。一ヶ月の成績を以てしても、土耳其人は不成績である。が、半年乃至一ケ年後に成績を博するのは、

勢力を増してゐるのは、一に此の鈍重の爲めである。日本人は深く土耳其人の鈍重に學ばねばならぬ。

七 關稅一班

南米諸國は世界隨一の關稅國で、政府の歳入は半ば此の關稅によつて成り立つてゐる。殊にブラジルは、關稅の高きと、南米無比である。ブラジルが、物價が高いのは、畢竟關稅高率の爲である。或物は平均原價の二十割乃至三十割で、如何なる物でも五割以下に下るものは無い。たゞに關稅は高いのみならず、關稅率亦甚だ不明瞭で、凡てブラジル政府所定の査定價額に依るのである。關稅の納付は、一部分即ち其の三割五分乃至五割は、金貨を以てする規定で、其れにも金貨の兩替料を徴する。倉敷料、稅關監視料、統計稅、稅關改良稅等もあり、やゝもすれば鑑定料又は消費稅をも納めねばならぬ。ブラジル貿易に困難を感じるのは、關稅手續である。從來日本品を輸送した者で、關稅の爲に苦められぬ者は、一人もない。試に

人縣島福の市ロウパンサ



La scène de l'adieu des émigrants de Fukushima-ken pour l'Inspecteur M. T. Matsuda.

ブラジル移民の中、最も人数が多いのは、鹿兒島縣人、熊本縣人である。本年に入つて俄に福岡縣人は増加した。此の成績の好いのは、流石に熊本縣人で、サン・ジョアキンの同縣人の如きは、堅忍刻苦、移民の好典型である。人数は遙に多いが、珈琲移民として、堅實の譽あるのは、福岡縣人である。ソアラ下耕地の福岡縣人の如きは、其の一例だが、其他各地の福岡縣人は大方好成績である。獨立營者に福岡縣人が多いのは、最も稱揚に依り、關西九州人の如く機智才略はないが眞面目で、律義で、且つ熱心であるのは、福岡縣人の特長である。上掲の男女は、サンパウロ市在留の福岡縣人で、監督松田順平氏の送別記念に撮影したものである。

關稅率の一般を擧ぐれば左の如し。  
絹糸類 一キロに付き四ミル

五十ミル。ピアノ掛蔽物などは、六十ミルである。

刺繡用の  
振糸 十  
キロに  
付き十  
二ミル  
織物類  
一キロ  
に付き  
三十ミ  
ル乃至

陶器類 普通一キロに付き二百レース乃至三百レース。色彩模様のある者は一ミル二百レース乃至二ミル五百レース。

其の他花筵は敷物用は一ミル五百レース、寢臺張用、其の他の薄手上物は三ミル二百レース。扇子類は一キロに付き三ミル。象牙、鼈甲類は一キロに付き二十ミル。屏風類は絹張紙張は三十二ミル。日傘は紙製は一ミル五百レース、絹製は七ミル。漆器類は、無地と象牙貝細工のものを問はず八ミル。鐘詰類は一キロに付き一ミル六百レース。玩具類は一キロに付き五百レースである。此の外前掲の附加税があるが爲に、ます／＼高いものとなる。ブラジル貿易に志ある者は、同事情に精通する者を顧問とするか、然らずんば、最初は試験的に商品を送り、實際に就て智識を得るを以て安全とする。百の智識は一の経験に如かず、ブラジル貿易に於て最も然りである。

#### 第十四 筆を擱くに際して

マルコ・ポーロの紀行は、十三世紀の名著であつた。コロンブスのアメリカ発見、マゼランの世界一周は、皆端をマルコ・ポーロの紀行に發してゐる。同書の世に出づるや、歐洲に雄飛してゐた當時の西班牙國民は、眼を擧げて、新大陸の探検に熱中した。コロンブスの遠征隊に加はつた水夫等も當時の風潮に驅られた速男のみで、新大陸が金銀珠玉で充滿してゐるものと想像してゐたのだ。が、新大陸は黄金世界でもなく、ユートピヤでもなかつた。新大陸に到着した水夫等の失望は言ふばかりなかつた。然かもマルコ・ポーロの紀行が、歐洲國民に與へた効果は没却することは出来ぬ。日露戦役後、ブラジル移民の有望を、我國民の前に提供したのは、ブラジル駐在辨理公使故杉村濬氏であつた。皇國殖民會社の移民計畫、藤崎商會の商店開始、又は某々等の自由渡航は、悉く故杉村公使の報告に刺激され

たものである。幸にして移民の計畫成り、故杉村公使の志は酬へられたが、同公使の報告を鵜呑にして、何等の準備なく、覺悟なく、渡航して、今に目的を果さぬ者もある。

大正時代の移民業は、日清戦役前後の移民業と同一にあらず。ブラジルの事情の如きも、或は公使館の報告あり、或は學者技術者の調査あり。日清戦役前後に比ぶれば、ブラジルの地を踏まざる者も、同國移民の實情は、歴々として指すが如しである。我國民の間に、沛然としてブラジル渡航の風が、興つて來たのは理りである。が、ブラジル移民に就て、惡聲を洩らす者はないでもない。或は有力なる新聞記者で、一知半解の徒の所説を掲げ、暗にブラジル移民に就て非難を試みんとする者も見える。余は本書を編纂するに當り、注意したのは、事實の正確を期することであつた。移民及び農業に就ては、最も意を用ゐた。或は公使館の報告に質し、或は學者専門家に問ひ、時間と努力との許す限り、余は事實の正確を

得るに力めた。然も本書の記事を以て、或は過小に傾けりといふ者もあらう。或は誇大に失せりといふ者もあらう。例令ば珈琲耕地の収入の如き、余は移民一家族の收穫は、一日四俵乃至五俵とした。即ち一家族の賃銀は、一日三圓二十五錢乃至三圓九十錢なりと計算した。但し移民家族といつても、家族の人員又は性質で、収入に非常の相違がある。三人家族もあり、五人家族もあり、悉く勞働に堪ゆる家族もあれば、然らざる家族もある。無病健全の家族は収入が多く、病人又は乳兒のある家族は、収入は寡い。無病健全の家族でも、其の家長の體力又は熟練次第で、收穫に相違がある。一日の收穫四俵内外の者もあれば、五六俵以上の者もある。さうかごいへば怠惰又は病氣の爲に、借錢のある家族もある。故に一日の收穫四俵乃至五俵といつても、五俵以上の家族もあり、四俵以下の家族もある。甚しきは三俵以下の家族もある。余は最も多くの實例に依つたものである。自由移民の成績も千差萬別である。第三回移民往航當時、四名の自由渡

航者がゐた。甲は學習院の出身、某男爵の令息、乙は外國語學校西班牙科出身、丙は千葉農學校に學籍があつたこかいふ青年、丁は、某宗敎學校に教鞭を取つたことがあるこかいふ、四十歳前後の分別盛りであつた。甲乙の二名は、グアタハラ耕地の人夫長に推され、一ヶ月百五十ミル（邦貨百圓）の給料取こなつたが、丙丁の二名は、一は鐵道工事の人夫となり、他は小耕地の日稼に出掛けた。僅に四名の自由渡航者であつたが、こんな風に、數日の中に、最うそれ／＼方向を異にした。果然、一千數百名の往航者の中、最も早くサンパウロ市に還つたのは、無智文盲の移民連でなく、丙丁の二名であつた。特に分別盛りの丁が、二ヶ月と辛抱し切れず、同郷の乙が人夫長となつたのに業を煮やし、逸早く耕地を出たのは、サンパウロ市日本人の非難を招いた。其後風の便に聞けば、丙は北米行汽船のボーイとなり、丁はポリブイヤ國を経て、日本に歸つたといふ。余は丙丁の二名は、何が故にブラジルに出掛けたかを怪しむ。特に丁の如きは、ポリブイヤ國

を横斷する氣力もあり、忍耐もありながら、小感情の爲に初一念を放棄した薄思弱行を憫まざるを得ない。丙は兎も角も、單に甲乙の二名を見れば、自由移民の成績は良好であるといへやう。丙丁の二名よりせば、全然不良なりといはざるを得ない。予は學生渡航の可否に於て、言語の外、技術の外に、意思の強固を求めたのは、此の故である。余はくれ／＼も、忍耐、克苦、即ち意思の強固を欲する者である。特に理想あり、抱負ある者には、最も必要である。

ブラジル公使館一等通譯官野田良治氏は、篤學の士である。昨年「南米」の著あり、世に公にされてある。同氏「南米」に序して曰く、わが同胞中、本書を繙きて、能く世界の政治及經濟上に於ける南米諸國の地位を了解し、更に深く之を研究せん企つる有識者一百名を得ば、本書は即ちその存在の無意義ならざるを悦ぶべく、尙賢明なる讀者諸君の中、南米に於ける我が發展の一日も猶豫すべきにあらざるを

覺悟し、自ら進んで新天地南米に渡航し、熱心且つ着實に事業を経営する同志僅に十名を得ば、著者の勞は即ち十分に酬られたるなり。こゝ、實に確言である。余は野田氏の言を以て、同じく之を我讀者に求むるを躊躇しない。海外は必らずしも成功の地にあらず。異風異俗の間に入り、一種の空洞を感ぜざる者は罕である。余は精神と身體の健全ならざる者には、内地にあるを以て、むしろ安全なりといひたい。眼前の成績に満足せず、忍耐と刻苦とある者に、初めて成功がある。移民に於て然り。事業家に於て殊に然りである。此の資格ある者には、ブラジルは實に世界の寶庫である、大寶庫である。余は本書を此の忍耐と刻苦とある讀者に勧めんとする者である。

南  
米  
ブラジル案内終

大正二年十一月七日印刷  
大正二年十一月十日發行

(定價金八十五錢)

不許  
複製

發行兼著述者 東京市本郷區込林町十八番地 横山源之助  
印刷者 東京市麴町區有樂町二丁目一番地 中村政雄  
印刷所 右 報文社

發行所

大賣捌所

東京市本郷區東片町百十一番地 南  
東京市神田區表神保町 東  
電話下谷二五四五番  
電話東京二二〇六三番  
東京堂  
(電話本局四五六一番)



348  
99

4

15

71/P-38

80

終

